

たまごやき

校長 木村 滋夫

可憐なハナミズキの街路樹が澄んだ初夏の空に映えて目を楽しませてくれています。4月、117名の1年生を迎え出発した平成19年度、はや1ヶ月を過ぎようとしています。お陰様で今年も落ち着いたスタートがきれっています。子どもたちは、運動会を目指して活動を開始しています。

1年生の遠足が生憎の雨で延期になりましたが、4年生の横浜港はまどり乗船、3年生の子どもの国への遠足を予定通りに終えることができました。

遠足といえば、子どもたちにとって弁当も楽しみの一つです。かつて、道徳の読み物資料に「たまごやき」というのがありました。遠足で子どもたちの弁当風景を見ながら、若い女教師が自分の子どもの時の遠足を思い出す話です。「遠足の弁当に『卵焼き』を入れてね」と母親に注文してあったが、仕事が忙しかった母親は卵の用意をしていない。駄々をこねて寝てしまうのですが、次の日開いた弁当には卵焼きが入っているというものです。今時卵焼きなど珍しくも何ともありませんが、昭和30年代には「巨人・大鵬・卵焼き」とまで言われた卵焼きです。我が子に遠足で卵焼きを食べさせようと卵をもらいに、1日の農作業を終え帰宅後に片道2時間の夜の山道を歩いて往復する父親と、その卵焼きの価値をしっかりと受け止めることのできる子の心が繋がっている『家族愛』がテーマの資料です。

5、6月には、「母の日」「父の日」が待っています。保護者の皆様も何かしら親との思い出をお持ちだと思います。母の日、父の日にプレゼントをすることだけでなく、親の思いを受け継いでいくことも親孝行なのではないでしょうか。

昨年1月以来、主のいなくなったヤギ小屋を今月中に撤去の予定です。昨年のアンケートでも継続を望むご意見をいただいています。動物の飼育を通して本校の子どもたちが豊かな心を育んできたのも事実です。しかし、何度も話ししてきましたが、昨今の子どもを取り巻く状況、施設の老朽化等々の理由から残念ながら継続は無理と考えます。寝藁も用意できないコンクリートの上で動物を飼育することはできないとも思います。

あざみ野第一小学校といえば、ヤギのいる学校と知られてきました。本校から子ヤギをもらって飼育していた学校も、今はいずれも途絶えていると聞きます。今後は栽培活動を中心に、「手間をかけた」教育を進めていきます。保護者、地域の皆様には、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。